# １．　『 IRON LOAD - 砂鉄/たたらとの出会い 』

- 茨城県鹿島・波崎＆千葉県九十九里浜 -　1995.10.

『IRON LOAD』-和鉄の道-

３世紀～５世紀さらに飛鳥・奈良時代に至るまで、中国・朝鮮半島から、日本沿岸をめぐる『鉄の道』があったという。

- 瀬戸内〔北九州-瀬戸内-備中・美作-兵庫・千種-大和〕
- 日本海・若狭・琵琶湖-大和　〔丹後・若狭＆越-大和〕
- 日本海沿岸〔北九州・長門-出雲-丹後-越-秋田・津軽〕
- 北太平洋沿岸〔津軽-三陸-房総--大和〕

## 1. 『たたら』との出会い

- 茨城県鹿島・波崎＆千葉県九十九里浜 --　『IRON LOAD 1.』 -

鹿島製鉄遺跡図

茨城県 波崎砂丘

千葉県九十九里浜

1991 年茨城県鹿島・波崎に転任し、波崎の海岸砂丘・九十九里浜を歩いて驚いた。 歩いている足元の砂に砂鉄が大量にまじっている。すごい量だ。
鉄鋼会社に入って、２０数年。 赴任先の研究所の敷地の地名にも、そこが昔砂鉄の産地であることが、常陸風土記に記されている。
『たたら』むかし少しかじった言葉　この言葉にこだわって　country walk したら……
と頭に浮かんだ。
まず、九十九里浜の完全踏破。兵庫県千種・奥出雲のたたら製鉄遺跡にも……再度　出掛けよう。
“ COUNTRY WALK ”をこの『たたら』にこだわってやって見ることにした。

日本には、古代から『たたら製鉄法』と呼ばれる砂鉄と木炭を使う日本独特の製鉄が有ったという。
弥生時代・日本の誕生が金属器の使用に始まるとすると武器・農耕機を初めとする『鉄器』の 支配は日本の国の広がりにきわめて重要な役割を担ったに違いない。
３世紀～５世紀さらに飛鳥・奈良時代には朝鮮半島から、＜日本海沿岸＞＜三陸・房総-太平洋沿岸ー大和＞＜北九州・瀬戸内ー大和＞など日本沿岸をめぐる『鉄の道』があったという。
日本の国の展開と『鉄』の展開には、非常にミステリアスな出会いが有るに違いない。

スタートは夏の暑い日。 銚子の丘に立つ赤いとんがり帽子の教会から九十九里浜の海岸全踏破と浜砂鉄の採取から・・・・・・・。
休みごとに歩いている内に冬になり、そして、１９９５年 仕事で訪れたアメリカ アリゾナで セドナ

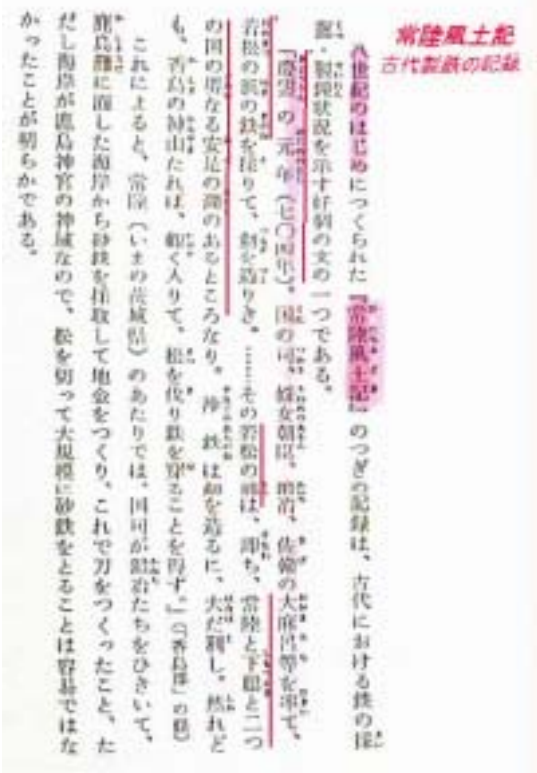
へ案内してもらって驚いた。 真っ赤な砂地の街・真っ赤な岩山。まさしくベンガラの岩山・街。
「たたら」を訪ねる walking はますます広がっている。
スタートとした銚子の教会から約１ＫＭ。最初に砂鉄を見つけた九十九里浜の端飯岡海岸の浜を見下ろす崖に飯岡灯台がある。この飯岡灯台のすぐそばに洒落た小さなレストランがある。
この walking を完了する時には、このレストランで夕日を見ながらワインをゆっり飲みかわすことにしている。 何時完了するかわからないけれども・・・・・・ ・

1995.10. 茨城県鹿島郡波崎町にて　M.Nakanishi

## 2. 茨城県鹿島・波崎＆千葉県九十九里浜 『たたら・製鉄遺跡』探訪

**【常陸風土記　古代砂鉄精錬の記録】**

利根川河口の逆水門より鹿島・波崎工業地帯を望む
古代「常陸風土記」に記載された砂鉄採取・精練の地「若松」はその中央にある。
また、その先鹿島灘に対峙する波崎砂丘には大量の砂鉄があり、その風紋が素晴らしい。


常陸風土記
古代製鉄の記録

八世紀のはじめにつくられた『常陸風土記』のつぎの記録は、古代における鉄の採掘・製錬状況を示す貴重な文献の一つである。

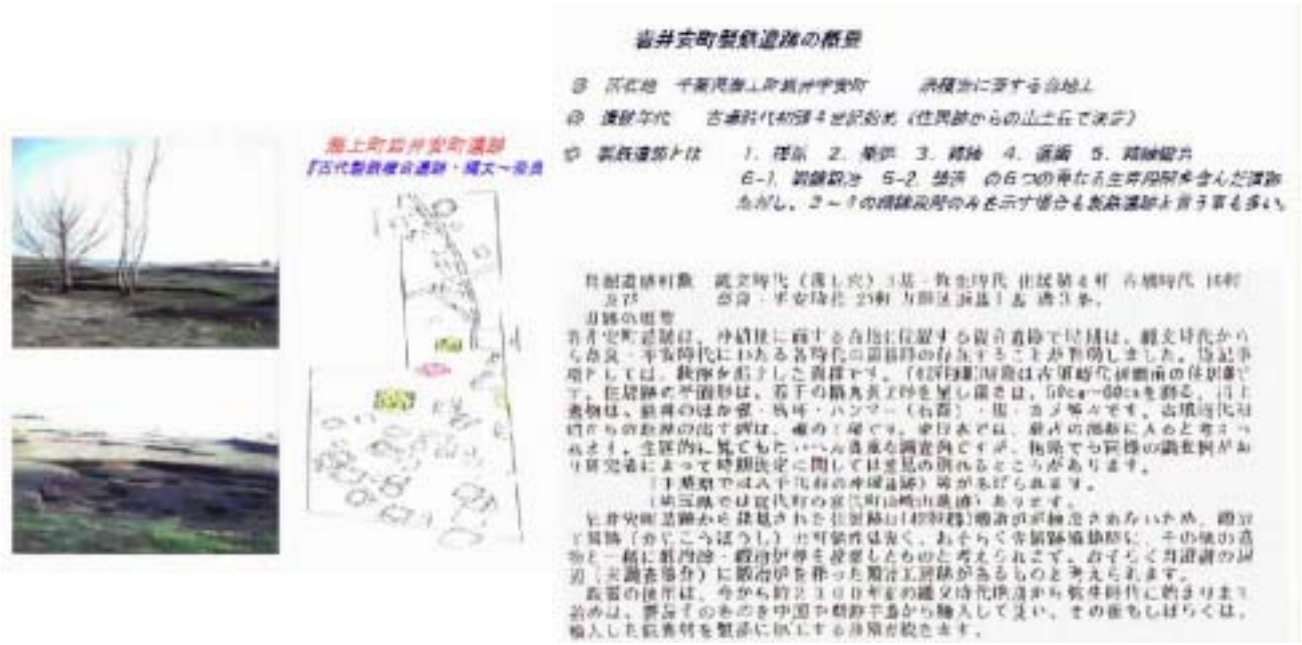
「慶雲二年（七〇五年）、国の司、従五位朝臣、時清、佐伯の大成宿禰を派遣して、若松の浜の鉄を採りて、剣を造りき。……その若松の浜は、即ち、常陸と下総との国の境なる安足の淵のあるところなり。神、鉄は剣を造るに、実だ利し。然れども、香島の神山たれば、軽く入りて、松を伐り鉄を穿ることを得ず。」（『香島郡』の巻）

これによると、常陸（いまの茨城県）のあたりでは、国司が部下たちをひきいて、鹿島灘に面した海岸から砂鉄を採取して地金をつくり、これで刀をつくったこと、ただし海岸が鹿島神宮の神域なので、松を切って大規模に砂鉄をとることは容易ではなかったことが明らかである。

**【波崎海岸砂丘　砂鉄の堆積・風紋】**

**【飯岡浜　九十九里浜砂鉄堆積浜】** -砂鉄の浜(飯岡浜)-

**【海上町岩井安町製鉄遺跡】**　　-飯岡浜北の海岸段丘の丘-




**【べんがら の 岩山・街　SEDONA】** -アメリカ　フリゾナ州-